

あなたとあなたの大事な人を守る重要な情報

みんなで防災！白川を知って水害から身を守ろう！

熊本市は、昭和28年の大水害をはじめ平成24年7月12日の九州北部豪雨など、これまで白川の氾濫による多くの水害を経験しています。

中央区を流れる白川は、普段は私たち中央区民に豊かな自然の潤いを与えてくれますが、豪雨の際には、阿蘇の降雨の影響を大きく受けることや中心市街地付近では「天井川」となっているなど危険な顔がある事もわたしたちは決して忘れてはいけません。

現在の白川河川改修工事の内容、災害情報の提供方法や備え、白川の特徴などを再確認し、もう一度災害に対する意識を高めましょう。

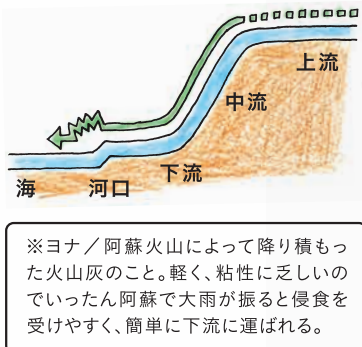
MEMO

白川の特徴

白川流域では、阿蘇で雨が降っているときに注意！！

豪雨地域の上流域の「阿蘇地方」で降った雨が、阿蘇山の「ヨナ※」とともに急勾配の中流域に流れ、下流域の熊本市中心市街部に流れてきます。上野から市内までの川の流れは2時間かかるといわれているが、大雨の場合は、途中の中流・下流に振った雨も合わさるため一気に流れ込みます。

また中心市街部は、土地より川が高い「天井川」となっているため一度洪水が起こると被害が拡大してしまいます。



※ヨナ／阿蘇火山によって降り積もった火山灰のこと。軽く、粘性に乏しいのでいったん阿蘇で大雨が振ると侵食を受けやすく、簡単に下流に運ばれる。

子飼地区の改修

銀座橋から子飼橋右岸に位置する子飼地区は、堤防が未整備の区間や高さ・幅が不足している区間があるため堤防の整備と補強を行っている。



明午橋から小碩橋の地区

この地区については、平成24年の被害が発生した区域を中心に、河川激甚災害対策特別緊急事業として、概ね5ヵ年程度で緊急的に川幅を広げる工事と堤防の整備を実施している。



MEMO 渡鹿堰と大井手

白川で一番大きい堰、渡鹿堰、そこから大井手と、その分水として一の井手、二の井手、三の井手が流れています。この堰や井手は土木・治水の神様である加藤清正が造ったもので、井手を流れる水は、今も農業用水として使われています。

大江地区の改修

大甲橋から明午橋上流の左岸に位置する大江地区は、川幅を広げる工事と堤防の整備を行っている。この区間は、川面に映る木々の美しさから「緑の区間」として市民に親しまれている区域。今回の工事でも、既存の樹木の移植を行うなど、景観の配慮をしながら工事を行っている。



洪水(集中豪雨)に対する心得

- 自分の命はまず、自分で守る
- テレビ・ラジオ・インターネットで最新の情報を確認する
- 早めの避難をする
- 河川・橋付近には決して近づかず、水位が気になっても見に行かない
- 熊本市内で降ってなくても阿蘇の上流での降雨に十分注意する
- 日頃から地下室等の洪水に対する危険性を認識する
- 地下室、地下駐車場は浸水する恐れがあるので注意する
- 外の様子かわからない地下室からは地上に早めに退避する
- 浸水すると電灯が消え、エレベータは使えない

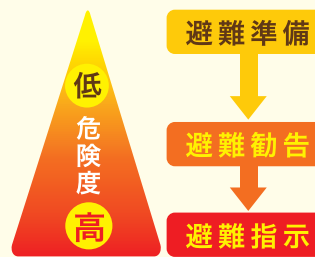
災害から家屋を守るチェックポイント

- 屋根 ● 瓦や銅板のひび割れやずれがないか？
- アンテナはしっかり固定されているか？
- 外壁 ● ひび割れ・破損などがないか？
- 雨どい ● 詰まり目のはずれがないか？
- 落ち葉などで詰まっていないか？
- 窓 ● ひび割れやがたつきはないか？
- 屋外の設置物 ● プロパンガスのボンベや看板などしっかり固定されているか？
- その他 ● 水に濡らしたくないものはなるべく高い所へ！

※今回の白川の工事の取材は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所にご協力いただきました。

自然災害は防ぐことは出来ませんが、備えることは出来ます

避難情報の種類



被害発生のある場合に、
①避難に時間が要する人は避難
②そのほかの住民は避難準備をする

災害発生のあるため、
住民に避難を勧める

災害発生のおそれが高く、
住民に強く避難を求める

災害情報の種類

- 熊本市災害情報メール
気象注意報・警報、避難所開設等をメールでお知らせ
entry-kumamoto@fastalarm.jp に
空メールを送り登録
- 熊本県防災情報メールサービス
気象注意報・警報、河川水位情報、避難勧告等をメールでお知らせ
entry@anshin.pref.kumamoto.jp に
空メールを送り登録

デジタルテレビ

データ放送で、リモコンの【d】ボタンを押し、
気象情報、土砂災害危険度情報、河川水位情報を入手

非常持出品

- 懐中電灯 できれば1人1台、予備の電池と電球も忘れずに。
- 携帯ラジオ 小型で軽く、AMとFMの両方聞けるものを。電池も多めに準備を。
- 非常用・水 カンパンや缶詰など、火を通さずに食べられるもの。ペットボトルの水。また幼児がいる場合は粉ミルクも忘れずに。
- 貴重品 現金、預貯金通帳・印鑑、健康保険証、住民票のコピーも。
- 救急医薬 キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば用意。

その他 ヘルメット(防災ずきん)、上着・下着、タオル、軍手、紙の食器、ライター(マッチ)ビニール袋、缶きり、栓抜き、ろうそく、ナイフ、ビニール袋ティッシュ、ビニールシート、生理用品、紙おむつ、ほ乳びんなど。

災害に対する校区の取り組み

黒髪校区 自分達の地域は自分たちで守る

熊本大学に隣接し、住民の半分は学生、残りの大半は65歳以上の高齢者が住む黒髪校区第4町内。そこには、平成12年に「自分達の地域は自分たちで守る」をスローガンに設立された自主防災クラブがある。地域の絆づくりが第一と、「災害時要援護者支援マップ」を作り、以下の5項目のまちづくり活動を行っている。①担当者を決め単身高齢者を日頃から目配りし見守る ②月2回の集団資源回収による資金調達 ③避難誘導・消火・非常食炊き出し等の訓練や応急手当講習等を通しての地域と密着した継続的防災啓発 ④緊急車両を妨げる狭い道路脇の電信柱53本の移設工事 ⑤クラブ員高齢化を考慮し、熊本県地域防災講習受講等(費用クラブ負担)若手リーダーの積極的な育成とクラブ員の意識高揚。

他にも、小学生と会話しながらの登下校時見守りや、防災バケツの配布、用水路転落防止柵設置、この春は、地域内の三つの池淵の道路に防御柵を設ける等、赤い防災ベスト姿がトレードマークのクラブ員は、日頃から住民の安心安全を目指している。

クラブ員の自主防災意識は高く、自主的で、その活動費用の大半は自給だ。このような活動が各地域に広がれば、災害に強い熊本市になるだろう。



1. 回収した資源の分別作業 2. 持ち運びが出来ない住民の家々をリヤカーで回る 3. 用水路への転落防止柵と暗渠への流れ込み防止柵 4. 池淵道路の柵 5. 電信柱を移動させたくなった道路

松田澄夫氏 インタビュー



時を超えて災害を伝えるスケッチ

昭和28年6月26日、熊本市は大水害を受けた。その直後、海老原喜之助画伯と門下生連は、当時の被害の状況をスケッチし、災害の生々しさを今に伝える。

今回、門下生の一で、災害の現場で約10日間、被害をつぶさに見てスケッチされた松田氏に話を伺った。

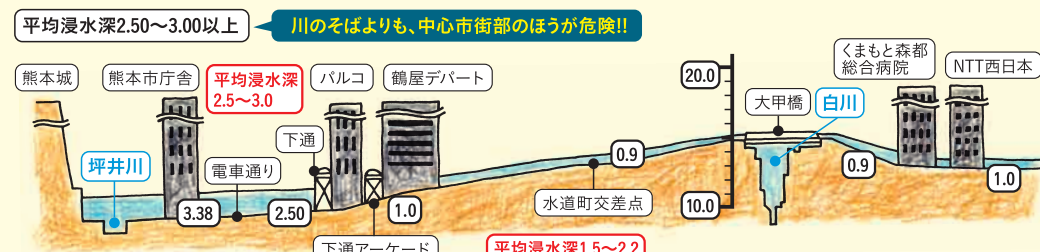
「洪水の翌日、午前中に海老原先生のところの泥だしをした後、午後からすぐに先生と5~6人の弟子たちとスケッチに出ました。最初の場所では、気は焦るが、その惨状をみて、身体が硬直したような状態になり、手が思うように動きませんでした」と松田氏は、語る。最初に描いたと示された絵は、硬い筆致で荒々しい。それが緊迫した様子を伝えている。松田氏の「どこも泥が大変だった」と言う話を聞きながら、順を追ってスケッチを見る。被災直後の壊れた橋や瓦礫で埋もれた家屋などの雑然とした状態から復旧に向



かう人々の様子が絵を追うごとに伝わってくる。「当時も夜半から降り始めた雨が、こんな惨事になるとは思っていませんでした」と松田氏。「ヨナ」という阿蘇の火山灰でできた土地と白川、そして梅雨。防災という意識をしっかりと刻んでおくことの大切さを思い起こさせてくれた松田氏の語り絵と絵であった。

惨状を見て思うように手が進まなかったというスケッチ。その緊張感が絵にも表れている。

白川の断面と昭和28年の水害の水位



6.26の洪水被害

昭和28年6月26日
白川大水害
■死者行方不明 422名
■家屋全半壊 9,102戸
■浸水家屋 31,145戸
■橋梁流失 85橋

編集後記

- 取材先の皆様に多くのことを教えていただきました。その情報は取材先の方々の「思い」も含めて伝えたいとは思ったものの、難しかったです(林)
- 自分の身は自分で守る！水害からの復興には河川改修や砂防工事など大規模な公共事業を伴い、長い時間がかかります。河川管理者や自治体、地域住民が過去の水害からの教訓を活かし、力を合わせ水害に強い地域として意識を高めたいと思います(芥川)
- (黒髪校区第4町内を取材して)クラブ全員の責任感・行動力に合わせ、相互の信頼で成り立っている活動に心から感動し、出来るだけ沢山の人の知って貰いたいと思った取材でした(高野)
- 取材の醍醐味を味わい始めて約半年。傾聴力・思考力・観察力・質問力等々の学び心が高まりました。その時に縁を結ぶ新鮮な交流の中で、中央区の魅力を探求し続けたいです(田中)